

会 議 録

1 会議名

令和5年度第4回有田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

- ・地域の活性化につながる取組について（公開）
- ・地域協議会活動報告会について（公開）

3 開催日時

令和6年1月29日（月）午後6時30分から午後7時18分

4 開催場所

上越市カルチャーセンター ミーティングルーム

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 熊木敏夫（会長）、樺沢早苗（副会長）、五十嵐里枝、池田憲雄、牛木幸一、内山幸一、栗間良子、高橋邦夫、高橋秀樹、長谷川陽一、平井弘一郎、渡辺恵子、渡邊瑞穂（欠席者4名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：佐藤所長、近藤副所長、小川係長、丸山主任

8 発言の内容

【近藤副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【熊木会長】

- ・挨拶
 - ・会議録の確認：長谷川委員、渡邊瑞穂委員に依頼
- 議題【協議事項】地域の活性化につながる取組について、事務局から説明をお願いし

たい。

【小川係長】

前回の会議で、地域の活性化につながる取組として有田区における「地域活性化の方向性」の構成要素の三つ、学校コミュニティを中心としたイベントや活動の推進、カルチャーセンターなど地域拠点の利活用、あらゆる世代・国籍の人々の支え合いと交流促進を合わせて、有田区全体で取り組むことの事例として、高橋秀樹委員から11月にカルチャーセンターで実施された「マタニティ&子育て家族フェスタ有田」について紹介していただいた。今日は、高橋秀樹委員から当日の状況などを説明していただき、また当日参加された委員からも感想をお聞きしながら、有田区全体で取り組む事業について意見交換していただきたい。

【熊木会長】

前回、事例紹介していただいたイベントについて、高橋秀樹委員から当日の状況などについて説明をお願いしたい。

【高橋秀樹委員】

前回簡単に実施内容について説明させていただいたが、その結果についてお話させていただく。会の名前は「マタニティ&子育て家族フェスタ有田」ということで、渡邊瑞穂委員を含めた三人の若い女性を中心に、令和5年度第1回県民たすけあい基金助成事業の助成を受け実施された。有田福祉の会が共催ということで、会場の申請や音響関係など、金額的に支援するのではなく現物支給のような形や、準備のお手伝いをさせていただいた。結果としては、朝10時から夕方3時まで開催したが、キッチンカーも含めて出展者数が36社、スポーツ体験コーナーでは上越高校のサッカー部、卓球部の方たちから手伝っていただいたり、上教大、看護大、新井高校等の生徒がボランティアで30名以上参加され、受付等を手伝ったりしていた。市からは、助産師、保健師、栄養士の方、マミーズネットの子育ての方、健康づくり推進課の方たちからも来ていただいて、それぞれのブースでお手伝いをいただいた。2階では、保育園児の作品展ということで、5園予定していたが、当日ちょうどインフルエンザが流行って、2園ほど出展できなかった。ステージイベントではJCVの公開収録があり、司会者が来られて進めていただいた。大道芸のパフォーマンスなど、いろいろなことをやっていただいた。全体では、来場者だけで1,302人。これは出展者や出演者、ボランティアの人を別にした数字で、そういう人たちを入れると約1,800人の方に来ていただいた。キッチン

カーは10軒ぐらい出店していただいたが、12時過ぎぐらいにはほぼ完売状態で大変なにぎわいだった。やってみてわかったことは、今までに直江津や大潟でも開催されたが、最大でも500人規模ぐらいだった。今回は目標を1,000人としたところ、出展者等含めて1,800人ぐらい来ていたので、駐車場は満車、入口も靴がっぱいの状態で、来られた方はびっくりしたと思う。ステージイベントがあったため、ブースの人たちの声が聞こえづらいなど、やってみて初めてわかることがいろいろあった。子どものはいはいレースなどもあり、いろいろなことをやって、終わってみると非常に評判が良く、10時に来て3時までいたという子どももいた。主催者の方たちがとったアンケートによると、来場者の住所は、市内が96%。市外の方が4%。年齢的には20代の方が65%で、40代、50代の方もいた。性別では、女性が82%を占めていた。満足度では、とても満足したという方が46%、満足が47%、やや不満という方は7%いた。ステージのプログラムはやったことがないこともあったが、それでも見たという方は52%ぐらいいた。世代間交流を念頭に置いたり、子育てについては授乳ブースや、おむつ替えブースを設置したりしたので、そういった行き届いたところがあった。体育館を主に使ったが、2階には休むところを作ったりした。後日、有田福祉の会の会報でも報告すると思うが、大変大勢の人がいて隙間がなかった。私は、音響係と写真を撮るので精一杯だった。社協の方など出展者の方も、ご飯を食べる時間もなかったというぐらい大勢の方に来ていただき、皆さんに参加していただいてありがたかったということである。

改善点としては、スタンプラリーをやったが、いろいろと欲張ってやったこともあり、最後までスタンプラリーをやっていることがわからなかった方がいたり、景品だけもらって帰る人もいたりした。11月23日で寒い時期にもかかわらず、非常にお天気に恵まれてラッキーだったが、またやるのであれば時期を考えなければならないと思った。

外では消防車、工事用のアームのついた工作車、パトカー等の展示もあり、子どもたちがそれに乗って体験するというのもやっていただいた。共催と言いつつも、ほとんどをふぁみりりの皆さんが企画、運営され、我々は援助というか、後ろからお手伝いをさせていただいた。高齢者が増えていろいろ言われているが、こんなに子どもたちが大勢いるんだというほど来てもらい、非常に喜んでいる。

問題点としては、カルチャーセンターのステージのアンプやスピーカーが、以前から全く使えない状態になっていることは改善しなければいけないと思う。使い勝手の悪い

ところもあったが、とりあえず今回はうまく回ったのではないかな。

今回うまくいったので、できれば今年や来年も続けて、年に一回ぐらいこういうイベントを行う。やはりカルチャーセンターでやったから、人間が集まったということもある。有田地区の住民が多いということと、駐車場があるということ。主催する側は、イベントのことにしかどうしても頭がいかないので、他の団体としては、やはり駐車場がいっぱいなので、交通安全協会も含めて何か手伝っていかないと大変ではないかと思う。出口まで車がぎっしりの状態だったので、私は中にいて状況がわからなかったが、空いているところを開放して駐車場にすればよかったのではないかな。何か工夫すればもっといいイベントになるのではないかなと思った。

次は欲張りながら、三世代交流のような形で仕掛けたいが、一気に欲張ってもなかなかうまくいかないかなので、ふぁみりりさんとうまく連携をとりながらやっていきたいと思っている。

【熊木会長】

渡邊瑞穂委員からも、主催者として感想等をお願いしたい。

【渡邊瑞穂委員】

来ていただいた方もいらっしゃると思うし、当日を知らない方は、今の高橋秀樹委員のお話を聞いて、盛りだくさんだと感じられた方もいらっしゃるかと思う。それにプラスして、私が実施しているベビーマッサージの体験を公民館講座として実施したり、民間の事業者から防災セミナーを開催していただき、防災食の試食等を行うなど、本当に欲張って開催させていただいた。NPO法人ふぁみりりは、産前産後に苦勞をしたママたちが集まった団体で、直江津、大潟でも同じようなイベントを開催させてもらっており、今回で3回目である。目的としては、今ある地域の資源と、これから子育てする人たち、また今後子育てする学生や、子育てが終わったけれども地域とともに子育てを応援してくださる方が実際に出会って子育てをこの地域でしていくんだな、なんだか安心できるなといったことを感じてもらえたらといった思いで実施している。

当日の感想としては、お天気がよく、体育館でいろいろな体験等もあったが、初めてカルチャーセンターに来たお子さん連れのお母さんたちが、キッチンカー等でご飯を食べた後、芝生の公園で大勢遊んでいた。アンケートに答えるとシャボン玉がもらえたりしたが、そこでシャボン玉をして駆け回っている子どもたちを見て、とてもにぎやかでこの会場でやってよかったとしみじみと感じた。犬の散歩や自分と子どもで散歩に来た

人はいても、この地域で、この体験をして、ここで出会って、みんなで子育てしているということを視覚的に感じたのがすごく良い風景で、カルチャーセンターで開催できてすごくよかったと思った。

地震のあとに聞いた話だが、どこへ逃げればいいのかわからなかったが、今回の防災セミナーやフェスをきっかけに、まずはカルチャーセンターに行けばいいんだとわかったという声を聞き、引っ越してきたばかりでどんな場所かわからない、アパートに住んでいて情報が入らないような人も、ここに来れば地域の情報がわかるんだということを感じてもらえたのはとてもいいきっかけになったと思う。

マタニティ&子育て家族フェスという、私たちがやってきたものをカルチャーセンターでやらせていただき、題名からしてマタニティ、子育てにフューチャーしてやっていたものだが、実際やってみて1,800人ぐらいの人が関わってくれて、有田地区としてやるとなったときには、この題名でなくてもいいのではないかと、もっと有田地区の魅力を盛り込んでもいいのではないかと考えた。いろいろな世代の人が住んでいる地域で、恵まれた環境の中であるからこそ子育てがしやすいもので、子育てをしている若い世代の人たちに来てもらうのはもちろんだが、多世代の交流が図れるようなものに、皆さんのご意見を取り入れて、組み替えてできればいいのではないかと感じた。

【高橋秀樹委員】

2月、3月に、「地域の子育て力向上のための子育て支援研修」という研修をカルチャーセンターで行うということでふぁみりりさんが計画されている。内容は、子育ての環境についてどういう取組をするか、大学の先生から来てもらい子どもの保健や子どもの応急処置等の研修ということで、後ほど回覧が回ると思う。私は子育て支援の方にはあまりタッチしていないが、私の子よりもっと下の若い世代の方たちから中心にやってもらっており、カルチャーセンターをうまく利用しながら存在を知っていただけることはありがたいと思っている。

【高橋邦夫委員】

長くは居られなかったが、車を停める場所がなくて困ったくらいに、こんなに大勢の人がいるのかということと、若い人がたくさん家族連れで来ているのが非常に印象的だった。だから全体的ににぎやかで明るい雰囲気、体育館のスペースが狭いくらいだった。たまたま天気がよかったので外でもいろいろできたが、天気が悪かったときにはどうしたらいいか、他のこの中の施設を活用する等考えておけば効果的で、年一回はこう

いうイベントがあると非常にいいのではないかと思った。

【樺沢副会長】

私は当日違う会でカルチャーセンターに来たが、今高橋邦夫委員が言われたように、本当に駐車場がなくて困った。少し2階から覗いたら若いお母さんお父さんがいて、それはよかったが、チラシを見て「おじいちゃん、おばあちゃんもどうぞ」と書いてあったので入りたいと思ったが、若い人が多すぎて入りづらかった。もう少しおじいちゃんおばあちゃんも入りやすい雰囲気にしていただけるとありがたいと思った。

【熊木会長】

高橋邦夫委員が言われたように、有田区として通年行事のように、年一回くらいこういうイベントがあってもいいのではないか。

カルチャーセンターの利用価値は、来てみて、子どもが遊んでみて初めてわかる。奥のほうに木があって意外と広い、面白いところだということは来てみないとわからない。市はPRをあまりしないので仕方がないと思っているが、来てもらえればわかる。有田区としても協賛でもいいので、年一回くらいカルチャーセンターを利用したイベントで、カルチャーセンターの知名度を上げていければよいのではないか。

防災に関して、有田地区町内会長協議会では市の防災マップは配っているが、有田区は新しい流入者のサイクルが早いので、2年前に配っても有田区においてはものすごく古い。常に1年、2年の間でも入ってこられる方が非常に多い区である。私の町内でも新しく入ってくる人には、できる限りマップと防災マップを手渡している。以前は、地域活動支援事業を活用して、有田区の地図を作りながら、裏面に防災マップ的な、避難所等の施設を織り込んだものを添付して、3年か4年に一度全戸配布をしていた。制度が変わったので、そういうことができなくなってきている。市の防災マップは有田区だけではないので、分厚くて読んでいくと大変だということもあるので、今後は違う形で身近な自分の住んでいる有田区のマップだけ抜き出しながら作成できないかと考えている。私も今回の地震で、避難所の状況を見てつくづく感じたのはそこにある。というのは、どういうわけか東中学校に外国人が大勢来てしまった。なぜかというと、友達同士で携帯電話でやり取りをして、ここにいる、ここだったらこういうものがあるということで、最終的に40人近くになり、そこで一晩明かし、学校の先生も市の職員も大変だったそうである。そういったことはなぜ起こるのかということ、他の地区ではどこへ行っていいのかわからないらしい。外国の方なので近所に聞いても言葉のことがあるので、

どうしても友達同士のラインなどで、今東中学校に避難しているということで、集中したようである。そういったことを今後も各避難所の検証をしながら、有田区としてどのようなものを準備して、新しく入ってこられた方に提供していくかということが課題になろうかと思う。うちの町内も次々と新しい人が入ってくるので、マップ等、配る物がなくてどうしようかと思っている。このようなことを踏まえながら、できる限り新しくこられた方に情報提供をしていければと考えている。カルチャーセンターでは、防災セミナーを民間事業者の方がやってくれてありがたかった。業者の方にとってもお客様なので、そういったことで貢献していくのは会社として社会的なニーズに込えているのだと思う。

他に意見、質問等はあるか。

私から質問させていただきたいが、県の補助金は、社協などを通じて出ているものか。

【渡邊瑞穂委員】

県に直接申請している。

【熊木会長】

社協は来ていたが、お金は出していないのか。

【高橋秀樹委員】

社協は出展者として参加していた。

防災の話に戻るが、この避難所に200人ぐらい来られた。カルチャーセンターに来るのが初めてでトイレの場所もわからない人がおり、何人にも聞かれたので、まだ宣伝が足りないと思った。小学生ぐらいは知っていて、お年寄りを連れて行ったりしていた。車椅子の方が利用できるトイレはここだけだというようなことも、実際に来てみないとわからない。「津波のときは、カルチャーセンターは避難所ではないですよ」と言う人もいたり、もう少し認知度を上げなければ駄目だと思った。そういったこともあり、イベントもさることながら、やはりここを覚えてもらって、何かあったらここへ来てもらうという仕掛けをしていけばよいのではないかと思った。トイレもわからない、どこへ行けばいいのか等、そういうことがいっぱいあった。

また、外国人の避難のことでは、カルチャーセンターには、普段遊びに来ている外国人の子どもたちがいるが、避難して来なかった。学校へ通っているとそこに大勢行くので、南川小学校と春日新田小学校は今外国人が非常に多いということで、そういうつながりで外国の人も含めて、避難所のことも含めて、イベントをやることによって地域の

ことを知ってもらおう。知ってもらうためにマップを作ったり、いろいろなことわかるようにしていかなければいけないと今回のイベントだけでなく、避難の状況を見て感じた。

【熊木会長】

今の意見は有田区町内会長協議会、防災委員会を含めたいろいろな会の検討課題になるかと思う。災害はいつ起こるかわからないということで早急に検証していきたいと思う。

他に意見を求めるがなし。

次に【協議事項】地域協議会活動報告会について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

- ・資料No.1「有田区地域協議会活動報告会の実施について」、資料No.2「有田区地域協議会第4期活動報告（案）」に基づき説明

本日は、活動報告会の実施概要や活動報告の内容について協議いただきたい。あわせて、今期の活動のふりかえりとして、地域活性化の方向性などの今期の協議内容や、来期へ向けた申し送り事項などについて、委員間で協議いただきたい。

【熊木会長】

ただいまの説明に対し、質問や意見はあるか。

【高橋秀樹委員】

今年から地域独自の予算の自己負担分が増えてくるということは、決定事項としてある。そうすると、私どもは利益団体でもないし、子ども、子育てのところにも支援したりしている自己資金が足りなくなる。そうすると、状況によっては自己負担が増えれば増えるほど、実施できなくなる。もともと足りない分を補助としてお願いしているのが、これからの申請する上でかなり影響が出てくると思う。それが決定項目であると言われた場合は、実施内容が縮小するというのも大いに考えられるので、そのあたりを皆さんのほうで頭に置いていただきたい。その中でこの新しいイベントをやるとしても、自己資金でとなるとお金が回らない。例えば、今回のイベントでも、照明、アンプ関係には全部お金がかかっている。自己資金でとなると、そのお金をどこかで調達することも考えないとうまくいかなくなる。イベントはそのままやってほしい、補助金は減らすというと、やる側としてはかなりきついものがある。ぎりぎりの中でやっているのだから、検討する材料として何か手だてを考えておかないとやめてしまう事業も出てくるのではないかと考えられる。皆さんになんとかしてほしいのではなく、どういうふう

に考え方をまとめてくれるのかがないと、学校関係もそうだが、いろいろなものがお金が回っていかなくなることになりかねない。ぜひそのへんについて、考えていただきたい。

【熊木会長】

30%の自己負担の話だと思うが、今年からか。

【佐藤所長】

令和6年度は、継続事業は90%の補助、10%の団体負担という形になる。令和7年度は20%、令和8年度が30%、市が上限70%までは補助するという制度になっている。先ほど高橋秀樹委員からもお話があったが、団体の皆さんが非常に苦しくなって、活動が行き詰まるのではないかとすることは市としても懸念をしている。地域政策課でも今、制度について検討し、整理しているところである。令和6年度については90%になるということをご承知おきいただきながら、その先については今検討を重ねているところなのでご理解をいただきたい。

【熊木会長】

他に意見を求めるがなし。

今ほどの活動報告案を、説明会で資料として提示することとする。

次に、今期の活動のふりかえりとして、今期の協議内容や来期に向けた申し送り等の事項について意見を求めるがなし。

活動報告案の中に記載されていることは、皆さんの意見を踏まえた協議結果なので、これをもって委員の意見とする。申し送り等と言われても何を申し送っているのかわからないが、皆さんが継続して委員になられるのであれば申し送りはしなくてよい。来期は第五期の委員の公募になるので、そのへんを踏まえて意見はないか。

2月26日の活動報告会は、委員は自由参加ではなく基本的に参加を求めるということでよいか。

【佐藤所長】

委員の皆さんの活動の報告になるので、出席していただき、地域の皆さんにこれまで行ってきた活動の内容を広く周知していただきたいと思う。

【熊木会長】

その他、次回の地域協議会について、事務局から説明をお願いしたい。

【小川係長】

- ・次回協議会：2月26日（月）活動報告会終了後

【牛木委員】

活動報告会が6時半からで地域協議会は終了後ということでよいか。

【熊木会長】

終了後になる。

他に意見、質問を求めるがなし。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。